

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

創造する子「Create～自分・仲間・学校・まち・夢を創る」
 ◇自分で考え、判断し、責任を持って行動する子を育てます。(知)
 ◇友達を協力し、みんなのことを大切に子を育てます。(徳)
 ◇心身を鍛え、よりよい生活習慣を身に付け、自他の生命を尊重する子を育てます。(体)
 ◇まちの人や事柄とのふれあいを大切にし、まちと共に生きる子を育てます。(公)
 ◇社会の変化に柔軟に対応し、自己肯定感をもち、夢やモチベーションを持ち続ける子を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

《「白カバ」に関する力～問題解決的な学習過程を通して》

【各学年で重点的に育てたい資質・能力】
 (低)主体性・積極性、人と関わろうとする力
 (中)問題発見・解決能力、思いや考えを伝える力、意思決定をする力
 (高)多様性を尊重する力、様々な情報を活用する力

具体化した資質・能力

【自分づくりに関する力】
 ・主体性・積極性 ・人と関わろうとする力 ・問題発見、解決能力
 ・思いや考えを伝える力 ・意思決定する力 ・多様性を尊重する力
 ・様々な情報を活用・選択する力 ・伝え合うことで自分の考えを深化させる力

中期取組目標

◇一人の児童を徹底して大切に、多様性を生かしたかわり、まちとともに歩む学校にします。
 ・(学力向上・特別支援)児童一人ひとりの特性を見取り、個に応じた学習方法の工夫や指導方法を改善し、問題解決的な学びを通して学力が向上する学校にします。
 ・(児童指導)安心・安全を第一に、児童一人ひとりと向き合い、寄り添いながら全教職員で一人の児童を育て、いじめを許さない学校風土づくりを進めます。
 ・(職員協働)教職員としての自覚をもち、相互に信頼し、専門性を高めるために切磋琢磨しながら成長し合い、「チーム川和東」を実感する学校にします。
 ・(特色1)大規模校の特色を生かし、ダイナミックな教育活動を通じて社会性を育めるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①学力・学習状況調査の結果を分析し、課題を教員で共有し、授業改善で学力向上に取り組むとともに、児童一人ひとりに応じた学習指導を行う。②児童が安心して学習に取り組めるようにユニバーサルデザインを意識した学習指導及び、教科担任制の授業の方法を工夫し、学年内で実施する。③GIGAスクール構想にともなう授業を積極的に取り入れ、分散型や臨時休校に備えるとともに、通常の授業場面で効果的な指導、評価の改善に努める。
担当	重点推進-GIGA推進委員会

学力向上に関わる本校の状況
<p>(1)学力に関わる児童の実態 本校の実態として全体的には、学年でばらつきはあるものの横浜市の平均の学力である。学習意識について、過去の本校のデータと比較すると、低下傾向にあることが結果から読み取ることができる。 このような現状から、子どもが主体的に課題を見つけ、解決していくような問題解決的な学習の充実を目指していく必要がある。今年度は、学年に応じて学力や学習意識の向上・定着を目指すために以下の3点に留意して確かな学力の定着を目指す。</p> <p>(2)学力向上に関わる学校の取り組み ①問題解決的な学習を充実させ、子ども自身が学習をつくり解決していく授業づくりを意識し、学習の課程や成果を的確に捉えていく。 ②子ども達の主体的な学びの可能性を広げるために、学習活動に応じて、ICTを活用していく。 ③単元で育てたい資質能力を明確にし、単元目標を達成していく中で資質能力が身に付いていくような手立てを充実させる。</p>

今年度の目標
○問題解決的な学習を通して、自分の考えや思いをもち、それを伝え合い、そして受け止め、自分の考えを深化させていく子どもの育成。
目標を実現するための具体的行動プラン
<p>上半期</p> <p>(1)問題解決的な学習の充実 ・児童自身が学びをつくりだしていけるような学習過程の工夫や手立てなどを学年研や指導案検討などを通して研究していく。 ・学習中の児童の姿をしっかりと見取り、評価し、授業改善につなげていく。 ・研究の中でわかってきた有効な手立てと児童の姿の共有。 (2)学年として育成を目指す資質能力と具体的取組事例 (低学年) ○主体性、積極性、人と関わろうとする力 ・地域や幼稚園との交流を通して人とつながる場面の設定。 ・児童の興味・関心をひく学習過程の工夫。 (中学年) ○問題発見・解決能力、思いや考えを伝える力、意思決定する力 ・児童が学習問題を発見できるような単元計画や導入場面の工夫。 ・学習を通して人や物との関わりの中で自分の思いや考えをもつことができる場面を授業の中で位置づける。 (高学年) ○多様性を尊重する力、様々な情報を活用・選択する力、伝え合うことで自分の力を深化させる力 ・子ども同士の学び合い、教え合い活動の充実。 ・自分の考えと他者の考えを比較したり、関連付けたりすることのできる手立ての充実。 (個別支援) ○個性に気付き人と関わろうとする力 ・落ち着いて学習することができる環境づくり ・どの児童も安心して学習ができるように1人ひとりに合った学習支援。</p> <p>下半期</p> <p>(1)問題解決的な学習の充実 ・児童自身が学びをつくりだしていけるような学習過程の工夫や手立てなどを学年研や指導案検討などを通して研究していく。 ・学習中の児童の姿をしっかりと見取り、評価し、授業改善につなげていく。 ・研究の中でわかってきた有効な手立てと児童の姿の共有。 (2)学年として育成を目指す資質能力と具体的取組事例 (低学年) ○主体性、積極性、人と関わろうとする力 ・地域や幼稚園との交流を通して人とつながる場面の設定。 ・学習を通して感じたことを言葉にする場面を授業の中で位置づける。 (中学年) ○問題発見・解決能力、思いや考えを伝える力、意思決定する力 ・学習を通して人や物との関わりの中で自分の思いや考えをもつことができる場面を授業の中で位置づける。 ・相手の考えや思いを受け止めて聞く学習場面の充実。 (高学年) ○多様性を尊重する力、様々な情報を活用・選択する力、伝え合うことで自分の力を深化させる力 ・子ども同士の学び合い、教え合い活動の充実。 ・事実などを解釈し自分の考えを形成したり、目的や意図に応じて伝えるべきことを整理したりする場面を授業の中で位置づける。 (個別支援) ○個性に気付き人と関わろうとする力 ・どの児童も安心して学習ができるように1人ひとりに合った学習支援。 ・互いの考え方や違いを認め合う子ども一人ひとりに大切にした仲間づくり。</p>

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①特別の教科道徳の授業を充実させ、児童一人ひとりが自分の生活や生き方にあてはめながらよりよい生き方ができるように考えさせる。②地域の方やボランティアの方々との交流や、たてわり活動での異学年交流などを通じ、豊かな心の育成や感謝の気持ちを伝えられるように支援する。
担当	子ども支援・地域・異学年交流委員会

豊かな心に関わる本校の状況
本校の子どもたちは、物事に対して一生懸命に取り組む、積極的に自分のものにして吸収する力がある。また、集団の中で周りと協調して活動を進めることができる。しかし、自分で考え主体的に行動する力が十分に育っていない。自分の力をどのように生かしていけばよいのか分からなかったり、みんなのことを考えて行動できなかったりすることがある。

今年度の目標
縦割り活動・ペア学年活動や学校行事や児童会活動を通して、集団の連帯感や達成感を感じ、主体的に取り組む意欲を育てる。
目標を実現するための具体的行動プラン
<p>上半期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し合い活動の充実 ・よりよい生活を築くために、話し合い活動の充実を図り、互いの見方や考え方を広げたり深めたりする。 ○異年齢集団活動の充実 ・児童会活動・クラブ活動・縦割りの活動・ペア学年の活動を計画的に実施し、それぞれの役割を自覚し、自主的、意欲的に取り組めるようにする。 ・5年・6年で実施する宿泊体験学習のねらいを明確にし、豊かな自然や文化に触れる「集団宿泊体験」の充実を図り、体験から学んだことを日々の生活に生かしていく。 <p>下半期</p>

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体育の授業に、体力づくりを意識した内容を継続的に取り入れる。②食育をテーマとした学習を児童と保護者で実施する。③年間にわたり学校全体で取り組む運動を取り入れる。
担当	学校保健健康環境委員会

健やかな体に関わる本校の状況
<p>(1)健やかな体に関わる児童の実態 ○横浜市体力・運動能力調査では、「シャトルラン」「50m走」が市平均に満たない学年が多い。また、「1日の運動・スポーツの実施時間」「運動量」では、「朝ごはんを毎日食べている」児童の割合が高いが、「時々食べない」「毎日食べない」が一定数いる。また、給食の場面では、給食残渣量(特に米飯、豆類等)が多い一方で、食べ過ぎで体調を崩す児童もみられる。 ○同調査では、「1日の睡眠時間が8時間以上」の割合が1年生以外では5割～6割程度である。 ○同調査では、ゲームやスマホ、パソコンを使用している時間は、どの学年も市平均より下回っているが、3時間以上長時間視聴している児童が一定数いる。 ○健康診断(視力検査)では、B以下の児童の割合が前年度よりも増えている。 ○生活環境では、自然豊かで公園が多くあり、遊歩道も整備されており、自由に運動に親しむことができる。</p>

今年度の目標
○児童一人ひとりが自分の生活習慣(運動、休養・睡眠、栄養)を見直し、主体的に改善しようとする態度を育成する。【低】かかわりあう力【高】仲間と交流するし伝え合う力
目標を実現するための具体的行動プラン
<p>上半期</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)体育学習の充実 ・児童が将来にわたり豊かなスポーツライフを実現するために、体ほぐしや体力を高めるために行われる運動等の必要性を感じ取り、その基礎的・基本的な内容を身に付けられるようにする。 ・授業の質(運動時間の確保、授業内容のつながり、学習カードの工夫等)の向上のために、担当教諭を中心とした授業公開や情報発信を進んで行う。 (2)食の全体計画に基づく指導等の取組を実施 ・学級活動(2)や給食の時間の活用 (3)児童会活動、学校保健委員会「すこやか会議」の充実 ・年間テーマを「サン(日光・外遊び) サンタイム(運動、睡眠・休養、栄養)で もっとよくな体をしよう」と設定し児童が主体的に課題解決ができるように学校全体で取り組む。 (4)家庭、地域との連携を図る ・健やかな体に関わる取組を学校だより、給食だより、ほけんだより等で発信する。 <p>下半期</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)体育学習や体育的行事の充実 ・児童が体ほぐしや体力を高めるために行われる運動の必要性を感じ取り、その基礎的・基本的な内容を身に付けられるようにする。 ・授業の質(運動時間の確保、授業内容のつながり、学習カードの工夫等)の向上のために、担当教諭を中心とした授業公開や情報発信を進んで行う。 (2)食の全体計画に基づく指導等の取組を実施 ・学級活動(2)や給食の時間の活用 (3)児童会活動、学校保健委員会「すこやか会議」の充実 ・児童が主体的に課題解決しながら学校全体で楽しく取り組めるようにする。 (4)家庭、地域との連携を図る ・健やかな体に関わる取組を学校だより、給食だより、ほけんだより等で発信する。